

大滝ダムでの学習支援方法 (ダム見学新聞コンクール)

上畑 祥吾

近畿地方整備局 紀の川ダム統合管理事務所 管理課 (〒637-0002奈良県五條市三在町1681)

大滝ダム・学べる建設ステーションに訪れた子供達が、校外学習で見たこと、学んだこと、感じたことを自ら企画、編集した新聞を通じて、豊かな表現力向上を目的としておこなってきた校外学習支援について報告するものである。

キーワード 大滝ダム、学習支援、ダム見学新聞

1. ダム見学新聞コンクール(仕組みと狙い)

「大滝ダム・学べる建設ステーション」に校外学習で訪れた子供達が、大滝ダムや水源地である川上村について、見たこと、学んだこと、感じたことを自ら企画・編集して「ダム見学新聞」にまとめることで「大滝ダムの役割」や「人間と水との深い関わり」を考えてもらうことを目的に開催しているものです。

ダム見学新聞コンクールは、1996年に第1回目を開催し、2012年で17回目を迎えました。これまでの作品応募者数は累計で16,330人(274校)となっています。また、毎年応募作品の中から優秀な作品の表彰を行っています。

なお、作品を審査する委員には、元奈良教育大学教授 増田先生を委員長とする、奈良県や地元川上村の教育関係者等で構成されています。

<位置図>



<作品審査会の様子>



<紀の川流域図>



審査会において、表彰作品が選定されれば、大滝ダム「ダム見学新聞」コンクールの表彰式を行います。この表彰式については、「大滝ダム・学べる建設ステーション」で行い、父兄同伴で出席してもらっています。また、表彰式の終了後には、ダム見学会を実施しています。

＜表彰式の様子＞



＜表彰式終了後のダム見学の様子＞



ダムサイトの右岸広場には記念碑が設置されています。

＜ダム湖の記念碑＞



大滝ダムを含む周辺の見学場所としては、ダムの空みち（堤体天端道路）、ダムの中みち（外部栈橋）、ダイナミック広場（堤体下流広場）、クロベノエキ（黒四で使われた建設機械）、学べる防災ステーションなどがあります。

＜大滝ダムの外部栈橋＞



2. 大滝ダムとその周辺の見所（魅力）

2013年4月より本格運用を開始した「大滝ダム」は、洪水調節、水道用水・工業用水の供給、発電、流水の正常な機能の維持を目的とする多目的ダムです。

実施計画調査に着手してから50年を経て、ようやく待望の完成を迎えました。

＜竣工式の様子＞



また、ダム湖は「おおたき龍神湖」と命名され、

＜ダムの中みち（外部栈橋）＞



「大滝ダム・学べる建設ステーション」は、人間と水との深い関わりを＜ダム建設＞を通じて学習できる体験型学習施設として、1996年に教育界の協力のもとオープンしました。

(※大滝ダム建設事業が2012年3月で終えたため、管理に移行した同年4月からは「大滝ダム・学べる防災ステーション」に名称変更となります。)

＜施設の外観＞



ここでは館内を見学しながら、各種の学べるコーナーとして、「水と人類の歴史を学ぶ」、「ダムと人類の歴史を学ぶ」、「ダムの役割を学ぶ」、「雨を学ぶ」、「水源地川上村を学ぶ」、「ゲートの働きを学ぶ」などがあります。

＜館内見学の様子＞



中でも、雨を学ぶコーナーとしての「豪雨体験室」の人气が高くなっています。2012年の実績では来館者の内、7割以上が利用しており、マスコミ取材の多いところです。

豪雨体験では、以下の3段階の体験が可能です。

- ・伊勢湾台風級 118mm/時間

- ・日本で観測された最高 187mm/時間
(長崎大水害:1982年7月23日)
- ・機械が作り出せる最大 600mm/時間

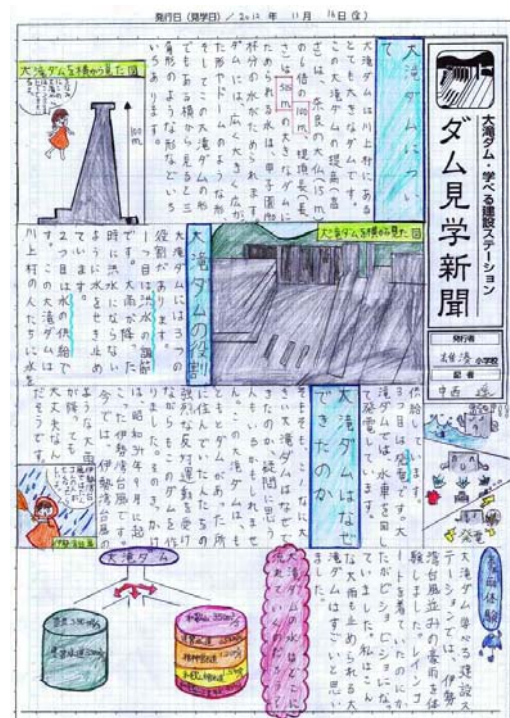
＜豪雨体験室の子供達＞



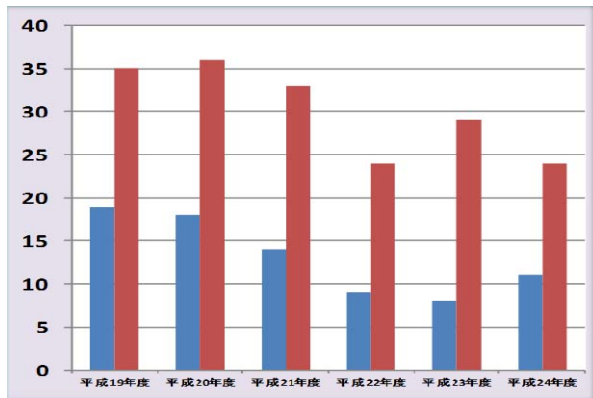
3. 子供達の作品から見てくるもの（効果）

子供達が作成した「ダム見学新聞」からは、大滝ダムの役割、大滝ダムの大きさ、大滝ダムを作るきっかけ（理由）、ダムの種類（形式）、水の大切さ（水はどこから来ているのか）、豪雨体験による水災害の恐ろしさ（ダムの重要性）などのキーワードが多く確認することができます。

また、さし絵を入れたり、色使いを工夫しながら作成しています。



＜「ダム見学新聞」応募小学校数（青）と
「校外学習」来館小学校数（赤）＞



毎年30校前後の小学校の校外学習に組み入れられ、ダムの役割等を学び、学習したものを「ダム見学新聞」として投稿されています。

4. 今後に向けて

「ダム見学新聞」は学校本来の授業と一体化した形で実施され、小学校への「学ぶ場」の提供として継続的に活用されています。このため、子供達が新聞作りを通じて、感じたことや考えたことを表現できる「ダム見学新聞」コンクールを実施していくことで、今後、さらにダムの役割や防災に対する理解者を増やして行きたいです。